

泊まれる車 被災地に

浴室やトイレも付いた自慢のトレーラーハウス。「震災への備えとして、普及させたい」(山梨県富士河口湖町で)＝中山博敬撮影



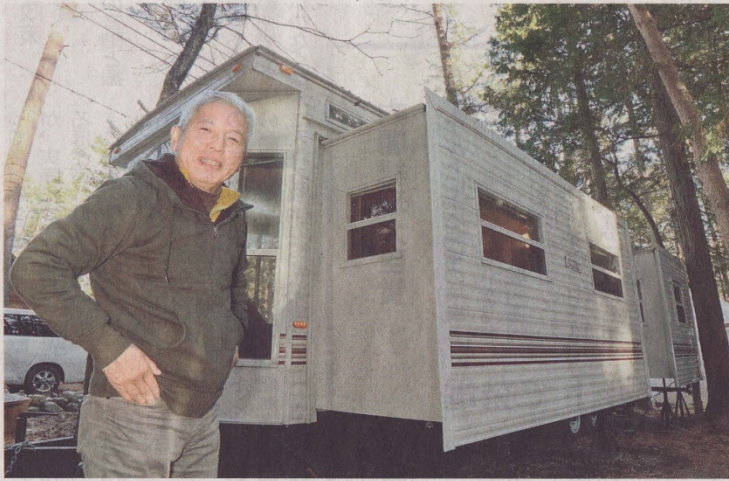
へ、赤とんぼ、赤とんぼの羽をとったらあぶらむし

昨年、清水国明さん(61)は、大学の後輩、笑福亭鶴瓶さん(60)の生番組に出演した。「あのねのね」の相棒の原田伸郎さん(60)と、大ヒット曲「赤とんぼの唄」を歌い、学生時代の秘話から、現在取り組む東日本大震災の被災地支援まで語り合った。

清水 国明 さん

眠る場所に困らなかった。20年以上前には、自前のキャンピングカーで国内外を旅した経験も持つ。テレビ、ラジオの司会や新聞、雑誌への執筆活動の傍ら、これまでに全国17か所にログハウスを建てたりと、根っからのアウトドア派だ。

そんな清水さんが本拠地としたのが、富士山麓の山梨県富士河口湖町。移転した幼稚園の園舎以外に何にもない。森に包まれる感じも気に入る。2004年、園舎を活用し、NPO法人河口湖自然楽校を設立した。翌年には手作りのアウトドアパークを開



しみず・くにあき タレント。1950年、福井県生まれ。京都産業大学在学中の73年、フォークソング・デュオ「あのねのね」で芸能界デビュー。4月からは山梨学院大客員教授に就任し、災害や防災、サバイバルについて教える予定。

園、自然とのふれあいを求める家族などに開放している。最初の妻は、30歳代半ばでがんで亡くなった。以来考えられるようになったのが、人生は長さではなく、中身だという。こと。どこで終わっても悔いを残さない毎日になりたい。さらに、数年前、ほぼ20年ぶりに受けた健康診断で十二指腸がんが見つかった。09年には摘出手術も成功。今回の東日本大震災を機に「自分はこのため」に生かされた」と思い定め、復興支援に乗り出した。

最も力を入れているのが、仮設住宅として活用でき、集会所などとしても使えるトレーラーハウスの普及だ。「避難所の雰囲気は、阪神大震災のときと同じだった。もう繰り返すのはできない。震災前の備えとして、ぜひ見て、知って、各地に配備してほしい」と話す。産業技術総合研究所や民間企業と連携して、28日には宮城県気仙沼市の仮設住宅脇に、第一弾として3台を配備する。

同様に、今なお宿泊施設が不足する被災地に、簡易ベッドで寝泊まりができる仮設のドームハウスを建設、管理人を置き、雇用創出につなげるアイデアも提唱。気仙沼市には既に2基建てている。

さらに、安心して水が飲めるよう、希望する福島県の被災者へ、浄水器を贈ろうと呼びかけている。被災者と支援者が、顔の見える関係としてつながれば支援が長続きする

と考えたからだ。

福井県の山の中で、幼少期を過ごし、自然が常に身近にあった。囲炉裏端で抱きかかえてもらった祖父のぬくもり、魚釣りでは今もかなわぬいおやじ。そして、「国明は本当に好きなことばかりして……」が口癖だったお袋は、今年の正月にみとった。

離婚と再々婚を経て、長男国太郎君(4)を授かった。前妻との間の娘に子どもが生まれ、昨年はおじいちゃんにもなった。豪放磊落だった曾祖父と同じ名前を付けた長男を、今、すーっと連れ歩く。アクティブな男に成長してほしい。「自分のすべてを注ぎ込み、よし後は任せようぞ」と言っていて、死ぬのが一番ですね」

(内田健司)